

1. 信仰によって、モーセは生まれてから、両親によって三か月の間隠されていました。彼らはその子の美しいのを見たからです。彼らは王の命令をも恐れませんでした。(11:23)
 - a. 信仰というレンズを通してモーセを見ると、モーセが自分自身で決断をするようになる以前に、彼の人生は信仰による影響を受けていたことがわかる。
 - b. 言うまでもなくそれは両親の信仰だったわけだが、モーセの中には、両親にこの世の法を犯してまでも行動を行わせるような何かがあった。
 - c. 「彼らは王の命令をも恐れませんでした」という意味は、モーセの両親が超自然的な神の平安の中にいた、ということか、あるいは王の命令に背くよりも神に促されていることを無視する結果を恐れたか、のどちらかだと思う。いずれにしても信仰とはしばしば私たちに決断を迫り、道を選択させる。それはある教えに対してただ知的に合意することではない。

2. 信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。(11:24-26)
 - a. モーセの両親の信仰によって彼は死を免れ、パロの娘の養子として育てられる。彼の同胞のヘブル人が奴隷として扱われている傍ら、成人するまで上流階級の中で生活する特権を得た。
 - b. モーセの立場は複雑である。それはクリスチャンを含む多くの人々が置かれている状況と似ているのではないだろうか。モーセはすべての祝福を神の摂理として受け入れればよかった。彼自身と彼の両親の信仰と誠実さによって得た生活だと受け止めることもできたであろう。パロの声の届く距離にいるよりも、変化と社会的正義をもたらす地位にとどまったほうがどんなに楽だろうか。モーセはヨセフの話も当然知っていたはずである。ヨセフがその立場を使って家族をききんから救ったように、モーセもこの居心地の良い地位に留まり、第二のヨセフだと弁明することもできたはずである。
 - c. しかしモーセの場合はそうではなかった。、モーセは自分の特殊な立場を正当化しようとはせず、はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取った。
 - d. 罪には魅力がある。そうでなかったら心をそそられることはない。何も魅力がなければ人はわざわざ罪を選ぶことはない。しかし罪は代価を伴う。最も高くつく代価は、キリストにあるすばらしい富と報いを逃してしまうことである。

3. 信仰によって、彼は、王の怒りを恐れなくて、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見るようにして、忍び通したからです。信仰によって、初子を滅ぼす者が彼らに触れることのないように、彼は過越と血の注ぎとを行ないました。(11:27-28)
 - a. モーセはこの後エジプトを立ち去り、奴隷として捕らわれていたイスラエルをエジプトから導き出すことになる。この話はすべて出エジプト記に記録されているので、細かい内容、およびそれがいかに困難であったかという説明は省略するが、それが実現するにはいくつかの出来事が起こらなければならなかった。
 - b. エジプトはこの世の象徴である。クリスチャンとしての信仰の第一歩はこの世の楽しみを否定し、いずれはそこから立ち去るように導かれることである。
 - c. 重要な要素は神におく信仰と、神の超自然的な節理である。この二つがなくてはすべては不可能である。捕らわれた霊を救うため、この世の中はもっとモーセの要素を必要としている。